平成18年度

環 境 活 動 レ ポ ー ト

神鋼メタルプロダクツ株式会社

平成19年1月

1　組織の概要

（1）事業所名、所在地および代表者

事　業　所　名 ： 神鋼メタルプロダクツ株式会社

所　　在　　地 ： 福岡県北九州市門司区小森江2丁目2番1号

代　　表　　者 ： 代表取締役社長　尾 崎　幸 一

（2）環境管理責任者および連絡先

環境管理責任者 ： 常務取締役工場長　和 田　克 利

連　　絡　　先 ： 総務担当係長　　松 浪　誠 一

TEL(093)381-1331　FAX(093)381-3833

（3）生産品目

復水管、銅・銅合金管、モールド、複合製品、熱交製品、その他各種加工品

（4）事業の規模

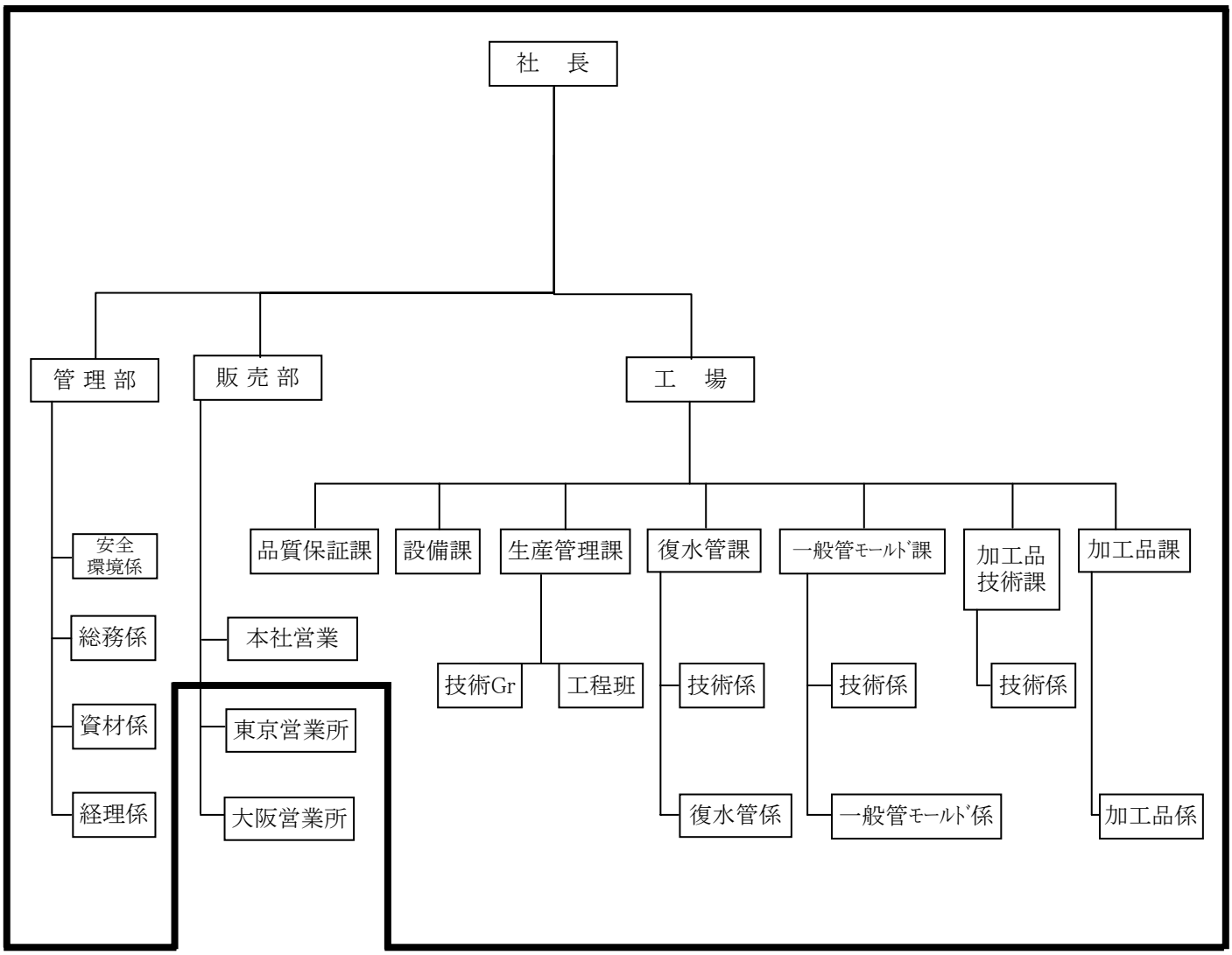
売　　上　　高 ：　69 億円

従　業　員　数 ：　247 名

敷　地　面　積 ：　52,000 ㎡

建　屋　面　積 ：　32,400 ㎡

(5)組織



：　EA21認証対象部署

環　境　方　針

1. 基本理念

神鋼メタルプロダクツ株式会社は、地球環境の保全がすべての生命体に共通する最も重要な課題であり、より健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが使命であると認識したうえで、このかけがえのない地球を守るために、事業活動のあらゆる面において、環境に配慮して行動することを決意します。

2. 行動指針

全員参加による下記取組みを継続的に推進します。

1. 環境負荷低減の推進
   - ・省エネルギーの推進
   - ・廃棄物の削減及びリサイクル化の推進
   - ・水使用量の削減
2. 環境関連法規則の遵守
3. 社会、地域との共生
4. 従業員への教育、訓練

平成18年10月1日

北九州市門司区小森江2丁目2番1号

神鋼メタルプロダクツ株式会社

代表取締役社長　　尾　崎　　幸　一

3 環境目標と実績

（1）目標の達成状況

当社は、H18年10月よりEA21を構築し、環境活動に取組んできました。
過去の環境負荷実績及び運用期間(H18年10～12月）の目標と実績は以下の通りです。

目　標　項　目		単　位	H17年度 実　績	H18年度 目　標	H18年 10～12月実績
1	二酸化炭素 排出量の削減	ton-CO_2/生産数量 (ton)	1．786	1．714以下	1．594
2	上水＋地下水 総使用量の削減	㎥/生産数量(ton)	5．998	5．917	5．153
3	産業廃棄物 排出量の削減	ton/年	213	200(年間) 50（3ヶ月）	33

※ 二酸化炭素排出量：H17年度実績(EA21基準年)は、原単位でH2年度(京都議定書の基準年)より18％削減しています。
また、総量で26％削減しています。
上水＋地下水総使用量：H17年度実績(EA21基準年)は、総量でH9年度(管理スタート年)より23％削減しています。
また、総量で25％削減しています。
産業廃棄物排出量：H17年度実績(EA21基準年)は、H12年度(廃棄物削減プロジェクトの基準年）より52％削減しています。

運用期間がまだ3ヶ月であるため、データのバラツキが大きいが、二酸化炭素排出量削減、
上水＋地下水総使用量削減、産業廃棄物排出量削減のいずれも目標をクリアしています。

（2）今年度以降の目標

目　標　項　目		単　位	H17年度 実　績	H18年度 目　標	H19年度 目　標	H20年度 目　標
1	二酸化炭素 排出量の削減	ton-CO_2/生産数量 (ton)	1．786	1．714以下 (4%)	1．678以下 (6%)	1．661以下 (7%)
2	上水＋地下水 総使用量の削減	㎥/生産数量(ton)	5．998	5．917 (1%)	5．857 (2%)	5．805 (3%)
3	産業廃棄物 排出量の削減	ton/年	213	200 (6%)	180 (15%)	170 (20%)

4	主な環境活動への取組み

1．二酸化炭素排出量削減のための取組み

（1）電気使用量の1％削減
- 銅合金溶解炉の同時2基稼動による集塵機の原単位を削減を図ります。
- 空調設備・照明器具・製造設備のON-OFFをこまめに実施します。
- 節電のﾗﾍﾞﾙ貼りによる意識付けを行います。

（2）A重油・LPG使用量の10％削減
（A重油・LPGを都市ガスに燃料転換します）
- ボイラー及びビレット加熱炉の燃料をA重油から都市ガスに変更します。
- ビレット予熱炉・熱処理炉・DXガス発生機の燃料をLPGから都市ガスに変更します。

（3）灯油使用量の削減
- 灯油ストーブを電気ストーブに置き換えます。

2．上水＋地下水使用量削減のための取組み

- レデューサー横湯槽内に蒸気ドレンを戻し、上水補給量を低減します。
- 中間炉、酸洗場の地下水補給をこまめに停止します。
- ローフィンチューブ洗浄廃液を凝集分離後に、処理水をリターンし、上水補給量を低減します。
- 手洗い場の流量を絞り、節水を行います。
- 水切り槽の設置、高圧洗浄機使用により加工品洗場上水使用量を低減します。
- 酸洗い水の有効活用を行い、ケニコート槽への上水補給量を低減します。
- 蒸気ﾄﾞﾚﾝ水、雨水を活用し、ﾎﾞｲﾗｰ用水使用量を低減します。
- 節水のﾗﾍﾞﾙ貼りによる意識付けを行います。

3．産業廃棄物排出量削減のための取組み

（1）廃油排出量の削減

- ローフィンチューブ洗浄水の油水分離方策を立案します。
- レデューサークランク潤滑油の再生使用の方策を立案します。
- 小径管抽伸油の回収再使用を徹底します。
- 点検強化と早期修理により、油圧配管の油漏れ防止に努めます。
- 大型管抽伸油の寿命ｱｯﾌﾟ対策を継続推進します。
- 大型管合成油に替わる抽伸油を探索します。

（2）廃酸排出量の削減

- 設備新調時にCr廃液低減対策を織り込みます。
- ケニコートNi廃液の処理を内製化します。

（3）その他

- 廃ﾌﾟﾗ、陶磁器の更なる再資源化の探索します。
- 分別強化によるリサイクル量の向上を図ります。
- コピー紙のウラ紙使用を徹底します。

5 環境活動の取組結果の評価

ｴｺｱｸｼｮﾝ21を運用した平成18年10月～12月における目標に対する実績は、
下記の通りです。

目　標　項　目		単　位	H17年度 実　績	H18年度 目　標	H18年 10～12月実績
1	二酸化炭素 排出量の削減	ton-CO_2/生産数量 (ton)	1．786	1．714以下	1．594
	1) A重油・LPG使用量の削減（燃転工事）	ton-CO2/生産数量(ton)	0．570	0．510	0．479
	2) 電力使用量の削減	ton-CO2/生産数量(ton)	1．214	1．202	1．114
2	上水＋地下水 総使用量の削減	m^3/生産数量(ton)	5．998	5．917	5．153
3	産業廃棄物 排出量の削減	ton/年 (ton/3ヶ月)	213	200 (50) ( )内3ヶ月の目標	33
	1) 廃油の削減	ton/年 (ton/3ヶ月)	104	98 (25)	11
	2) 廃酸の削減	ton/年 (ton/3ヶ月)	68	64 (16)	15

( )内は内数

1．二酸化炭素排出量の削減

以下の活動を実施した結果、目標達成することができました。

(1)電気使用量の削減
- 手元スイッチによる海岸ポンプのON-OFFをこまめに行いました。
- エアコンの運転管理基準を決め、運転スイッチ側に掲示しました。
- 昼休みの消灯、蛍光灯の間引き、不在時の消灯励行を行いました。
- 節電活動に対する意識付けのため、節電ラベルを各スイッチに貼付しました。

(2)A重油・LPG使用量の削減(都市ガスへの燃料転換)
- ビレット加熱炉の燃料転換工事が遅れたが、他の燃料転換は予定通り完了し、全体目標は達成できました。
- 空燃比の測定と調整を個々に行いました。
- 燃料転換時により高効率なボイラーの導入と台数3台から4台に増やし、より細かな台数制御を行うようにしました。
- 作業標準の改訂、新規制定により、維持・管理の定着を行いました。

(3)灯油使用量の削減
- 電気ストーブへの置き換えを3台行いました。
- 不在時の停止励行を行いました。

今後、気温が低下し、電気・都市ガス・灯油使用量の増加が予測されますので
取組みを継続推進・フォローしてH18年/下期目標を達成するよう努めます。

2. 上水＋地下水使用量の削減

以下の活動を実施した結果、目標達成することができました。

- H18年6月より、レデューサー横の湯槽内に蒸気ドレンを回収し、年間上水補給量を300m3/年 削減しました。
- 水切り槽の設置、高圧洗浄機使用により加工品洗場の上水使用量を低減しました。
- 雨水をボイラー用水として活用し、約20T/月削減しました。
- H18年11月に工場・事務所のﾄｲﾚ及び手洗い場全てに節水ｼｰﾙを張り、意識付けができてきました。

蒸気ドレン水及び雨水の活用を更に行うと共に取組みを継続推進・フォローして
H18年/下期目標を達成するよう努めます。

3. 産業廃棄物排出量の削減

以下の活動を実施した結果、目標達成することができました。

(1)廃油排出量の削減
- ローフィンチューブ洗浄廃水の凝集分離装置の仕様を具体化中です。
- 小径管抽伸油回収の管理担当者を決め、再使用の徹底を図りました。
- 油圧配管の日々チェックを行い、油漏れ防止を図りました。
- 大型管抽伸油の寿命ｱｯﾌﾟを行いました。
- 大型管合成油に替わる抽伸油のテスト・評価を行っています。

(2)廃酸排出量の削減
- めっき方法の変更によりCr廃液低減対策の設備改造をH19年8月に計画をしています。
- ケニコートNi廃液のスラッジ処理装置を見積中です。

(3)その他廃棄物排出量の削減
- 分別強化によるﾘｻｲｸﾙ量の向上を継続推進中です。
- コピー紙の裏紙使用を徹底しました。

今後、産業廃棄物排出量削減を行うためには、更なる廃油・廃酸の削減が必要です。
引き続き調査・検討を継続していきます。

4. 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無

当社に係わる環境関連法規等の遵守状況をチェックした結果、違反はありませんでした。
また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟や苦情は過去3年間ありませんでした。

産業廃棄物排出量の削減は、運用期間が3ヶ月であるため、データのバラツキが大きいが、目標を達成することができた。今後、産業廃棄物排出量削減を行うためには、更なる廃油・廃酸の削減が必要であり、引き続き調査・検討を継続していく。